



# お米 と みよし

- お米を作る、お米を食べる -



令和8年

5月2日[土]~6月28日[日] 開館時間 | 9:00~16:30  
休館日 | 月曜日(5月4日は除く)、5月7日(木)

交通のご案内

- 公共交通機関でお越しの場合
- 地下鉄鶴舞線「赤池」駅下車
- 名鉄バス豊田市行き …… 「三好」バス停下車、徒歩3分
- 名鉄三河線「豊田市」駅下車
- 名鉄バス赤池駅行き …… 「三好」バス停下車、徒歩3分
- 名鉄豊田線「三好ヶ丘」駅下車
- さんさんバス(いいじゃんライン) 「29 中部小学校」下車、徒歩3分
- お車でお越しの場合(無料駐車場あり)
- 東名高速道路 …… 「東名三好」I.C.から約10分

入場無料

みよし市立歴史民俗資料館

〒470-0224

愛知県みよし市三好町陣取山44-1

TEL 0561-34-5000 FAX 0561-34-5150



# お米とみよし —お米を作る、お米を食べる—

2024年から翌2025年にかけて、お米の生産量が少なくお店からお米がなくなり、お米を探して遠くまで買い出しに出かけるということが起きました。その時あらためてお米が私たちにとってなくてはならない大切なものだとということに気付かされました。お米は私たちの主食であり、この国の文化を育んできた食べ物です。

本展では、これまでに資料館に寄贈していただいたお米に関する資料を中心に展示し、郷土に暮らしていた人々がどのようにお米とかかわってきたのかを紹介します。

昭和の後半に農機具の機械化と農地の区画整理による効率化が進む以前の農作業はすべて人の手または牛や馬を用いて行われていました。

くわ  
鋤などの道具は、稲作が伝わった弥生時代から存在し、形を  
まぐわ  
変えていません。牛や馬に引かせるカラスキや馬鋤はトラクターの原型でした。

だっくく せいまい  
脱穀・精米の道具である千歯こきや足踏み脱穀機・唐箕・  
せんごく  
千石どうしなどは、江戸時代から昭和にかけて、開発・改良されてきたものです。

米作りに関わる道具や書物を見ていくといつの時代もお米をたくさん収穫すること、作業を効率化することを工夫しながら農作業を行う先人の姿が見えます。また、お米の保管や炊飯に関わる資料もご覧いただき、私たちとお米の未来について今一度考えていただければ幸いです。



馬鋤



上：田舟 左下：枡 右下：もみすり臼



## みよし市立歴史民俗資料館

〒470-0224 愛知県みよし市三好町陣取山 44-1  
TEL 0561-34-5000 FAX 0561-34-5150  
MAIL shiryoukan@city.aichi-miyoshi.lg.jp